

合同部会（地域移行支援部会・相談支援部会）グループワーク  
テーマ「土日や余暇、休日の過ごし方の情報共有について」

日時：令和6年2月16日（金） 14：00～15：30

【相談員とサビ管の情報共有の現状】

- ・モニタリング時に必ず余暇の過ごし方については確認するようにしている。
- ・モニタリング時、その他ケース記録個別支援計画でも把握し連携している。
- ・入所者のADLや年齢によって過ごし方、活動範囲が変わってくるので、施設の特徴を理解した質問や確認を行っている。
- ・本人の趣味や特技、希望、満足度などを施設職員と共有している。
- ・料理支援や買い物の内容について情報共有している。
- ・どのような過ごし方か、具体的に共有している。TV見ている⇒どんな番組が好きか、音楽鑑賞⇒どんな歌手をよく聴くか。
- ・大きな変化がある時は報告している。（怪我、事故、イベント参加、高額な買物、トラブル）
- ・相談員からも様子伺い、事業所（サビ管）へ連絡することもある。
- ・土日の余暇については、わざわざ報告はしないが、モニタリング時に施設の報告書やモニタリング記録を相談員に渡している。
- ・体調不良時等にも相談員と情報共有している。
- ・利用者が高齢者の場合、相談員とは細かく連携を取っている。
- ・健康と余暇を計画の中に入れるようにしている（相談員）。
- ・相談員がモニタリング時に本人へ直接聴き取りを実施。

●課題

- ・どこまで相談員に伝えていいのか判断に迷うことがある。（サビ管）
- ・幻聴などあるが、共有するタイミングがわからない。
- ・利用計画を立てる際に、ある程度具体的に書いた方が分かりやすいという意見と大まかに書いた方が個別支援計画に反映できるのではないかという意見が出た。

●感想

- ・余暇等の過ごし方を聞くこともあるが、計画への反映までは至っていなかった。
- ・コロナの影響で生活の場や活動の様子を見る機会は減ったと感じる
- ・相談員の立場として、作業以外の場面や様子を知る事で新たな目標や作業内容の拡大をはかる事ができる。
- ・支援者と情報共有することで余暇の充実に繋がると思う。
- ・各利用者さんのグループラインをつくって情報共有しては。
- ・余暇の過ごし方などについても気軽にやり取りできるツールがあればいいと思う。（LINEなど）

## 【余暇の過ごし方の希望（利用者の声）】

- ・私たちと同じように、土日の過ごし方も自分で選びたいと利用者も思っている。
- ・「釣り、地域行事参加、1人で買い物に行きたい」という希望がある。
- ・「施設の外部の美容室に行きたい」という希望があった。
- ・「ランチに行きたい、調理を教えてほしい、美容室に行きたい」という希望があった。
- ・旅行に行きたい 行ったことがないから。
- ・寝たきりの方で好きな音楽を流すことで喜んだ。

## 【余暇の過ごし方の現状】

- ・本人がやりたい事の希望をきいている。
- ・本人の希望で盆栽、CD や DVD 鑑賞
- ・趣味に必要な道具の購入、定期購読している雑誌の注文
- ・入所施設の方の個々に応じて外出している。
- ・なのはな園では沖縄や徳之島へ旅行したことがある。
- ・お正月にできなかったことを日をずらしてやっている。
- ・ゆっくりしたいという気持ちも大切にしている。
- ・お正月帰省できない人たちと初日の出を見に行ったりした。
- ・土日職員が少ないので、通院に合わせて外食をしたりしている。（施設）
- ・何もしないでひきこもりがち。サービス利用につながらない。
- ・ライフログ余暇支援 いずれは自分達で余暇を楽しめるようにしていく。
- ・歯石の除去、アロマオイルマッサージ、森林浴などケアを中心に土日は過ごす。
- ・施設では、集落の行事やイベントへの参加をしている。
- ・楽しめることの経験が少ないので趣味をみつきたい。可能性をみつけたるため楽しそうなことを見い出していくようにいろいろな活動を工夫している。
- ・現在 ドライブ、耳掃除、爪切り、髭剃りのケア、散歩、カラオケなどで過ごしている。
- ・お小遣い帳の整理（どれにどのくらいのお金を使っているか）を一緒にノートで確認する。
- ・気分転換、レク、外出、カラオケなどの活動をしている。
- ・スタッフ不足、施設と GH、協力しながら対応する。
- ・自立度の高い人とそうでない人では余暇活動に取り組みもバラバラに活動している。
- ・自立を促す、体験や買物支援、家庭での取り組みが難しいことも事業所と連携し、事業所がサポートすることで、できる事もある。（一人で買い物が出来るようになった方もいる）
- ・支援者も地域の情報など情報収集をして、利用者へ提供し選択できるように意識してる。
- ・地域活動支援センターで卓球やマージャン等、地域のイベントがある時には情報提供をする。
- ・旅行に行きたいと42歳で一人旅行し疎遠になっていた兄弟と仲良くなれた。
- ・沖縄や徳之島へ旅行したことがある（施設）。
- ・まとめ買い、お弁当の買物などをやるのが楽しみになっている。

- ・市民だよりの情報を知る事で交流センターに外出したり、マッチングで友達になってもらい二人で出かけることができた。
- ・教会やパチンコ、飲みに行くなど、私たちと同じような過ごし方を楽しみにしている。
- ・GHで食事が無いので、外部からの弁当やナイトケアで夕ご飯を頼んで食べている。
- ・午前中部屋の掃除をして過ごすのが習慣になっている。
- ・ミスチルのコンサートの予約の仕方を教え、一緒に予約し、当選して喜んでいた。
- ・土日はゆっくり過ごす（平日は作業所に行っているのだ）。
- ・1人で外出できるか段階を踏み見極めたところで、門限を設定し自由に外出している方もいる。（グループホーム）
- ・コロナ前は旅行もしていたが、その後なかなか計画出来ていない。今後再開させたい。

●課題

- ・育成会で公民館講座（ポッチャ）があるが、一般の方も一緒に参加できたらいい。
- ・公民館講座に障害者も参加できるように配慮してほしい。
- ・公民館講座、調理、料理教室など地域の人の活用ができるとよい。
- ・ヘルパー不足が問題となっているが、地域の人を含めた支援ができればいいと思う。（公民館講座に参加する際に、地域の方が「同じ講座を受けているから一緒に行く」等…）
- ・共生型、一緒に楽しめること。
- ・通所ではレクの実施はあるが、送迎や家族の協力などで限定されてしまう。
- ・障がい高齢者の一例、介護保険で施設を利用している方で、平日は就労Bに通所し慣れているが、土日になると一人で過ごせない方がいる。そのような場合、ヘルパー利用し毎週土日外出支援。
- ・コロナの影響で生活の場や活動の様子を見る機会は減ったと感じる。
- ・寝たきりの方の余暇活動があまりできていない。
- ・入所施設では外出の際、職員も付いているが、高齢の方は難しい場面がある。

以上